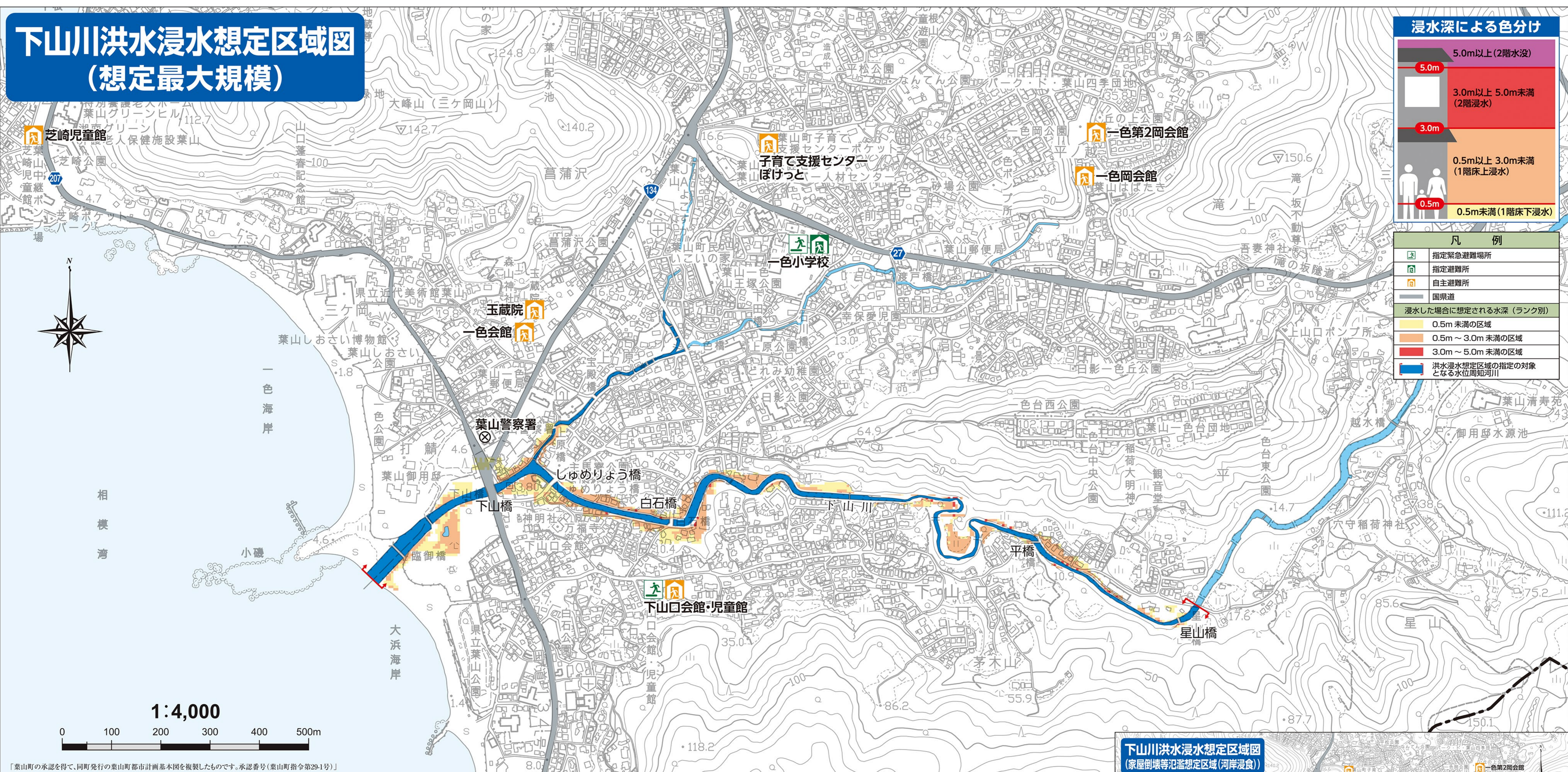


下山川洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)



浸水深による色分け

5.0m以上 (2階水没)
5.0m
3.0m以上 5.0m未満 (2階浸水)
3.0m
0.5m以上 3.0m未満 (1階床上浸水)
0.5m
0.5m未満 (1階床下浸水)

凡例

	指定緊急避難場所
	指定避難所
	自主避難所
	国県道
浸水した場合に想定される水深 (ランク別)	
	0.5m 未満の区域
	0.5m ~ 3.0m 未満の区域
	3.0m ~ 5.0m 未満の区域
	洪水浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川

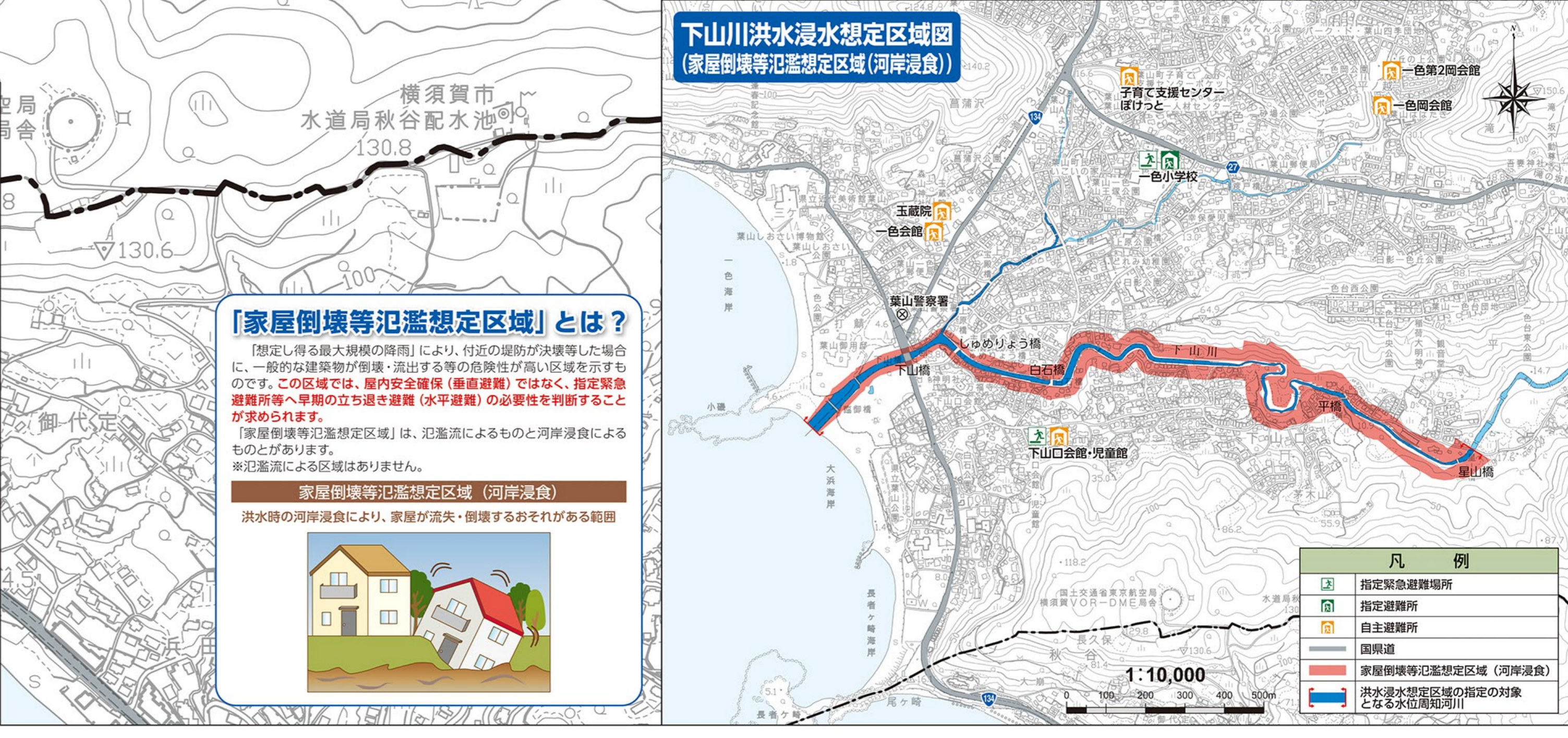
「葉山町の承認を得て、同町発行の葉山町都市計画基本図を複製したものです。承認番号(葉山町指令第29-1号)」

要配慮者への支援

- 突然の災害に見舞われると、避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うのは、高齢者や子ども、障がい者、傷病者、外国人などの要配慮者です。日ごろからコミュニケーションをとり、災害時には積極的に声をかけあい、相手に適した誘導方法で早めの避難ができるよう、協力しましょう。
- 耳の不自由な方**
相手の近くで、まっすぐ顔を向け、口を大きく動かして話しましょう。筆談や、身振り手振りで情報を伝えましょう。
 - 高齢者**
高齢で体が不自由な方には、腕を貸すか、ロープなどを使い、背負うなどして避難しましょう。その際には、複数の方で協力しましょう。
 - 外国人**
日本語でもいいたい声かけたり、身振り手振りで伝え、孤立させないようにしましょう。
 - 車いす利用者**
坂道を上るときは前向きで、降りるときは後ろ向きで避難しましょう。階段をのぼり降りする場合は、可能な限り3人以上で協力するようにしましょう。
 - 妊婦・乳幼児**
妊婦や乳幼児の体調に気を配りましょう。状況に応じて腕を貸すなど必要な支援をしましょう。

避難するときの注意点

- 日ごろからいざというときのことを考えておきましょう。そして、災害時には慌てず落ち着いた行動をとることができるよう避難するときを気をつけるべきことを覚えておきましょう。
- 基本は徒歩**
浸水深が30cm以上では車の走行が困難になるため、できるだけ徒歩で避難しましょう。
 - 動きやすい恰好、複数人での避難**
避難するときは、動きやすい恰好で、近所で声をかけあい、複数人で避難しましょう。
 - 靴は運動靴**
サンダルや長靴ではなく、ひもでしっかり締められる運動靴をはきましょう。長靴は、中に水が入ると重くなって動きにくくなります。
 - 足元に注意**
足元が見えにくい場合は、はずれたマンホールや側溝などに落ちないように、棒や杖などで確認しながら歩きましょう。
 - 危険な場所は避けて**
河川敷や橋、用水路など、水があふれやすい場所や地盤の緩みなどにより、がけ崩れが起こりやすい場所を避けて避難しましょう。
 - 水深に気をつけましょう**
浸水深が50cm程度あると大人でも歩くことが困難です。外に出ることが危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の上階に避難しましょう。
 - 非常持出品・家屋内備蓄品の準備**
災害の備えとして食料、飲料水、生活必需品などは、自分自身で用意することが原則です。避難時に最優先で持ち出す「非常持出品」をリュックサックなどに入れ、すぐに持ちだせる場所に準備しておきましょう。また、自宅で避難生活を送ることになった場合に備えて、浸水の影響が少ない上階などに、「家屋内備蓄品」を準備しましょう。日常的に必要なもの(常備薬・医療器具など)も備えておきましょう。



「家屋倒壊等氾濫想定区域」とは？

「想定される最大規模の降雨」により、付近の堤防が決壊等した場合に、一般的な建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示すものです。この区域では、屋内安全確保(垂直避難)ではなく、指定緊急避難所等へ早期の立ち退き避難(水平避難)の必要性を判断することが求められます。

「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、氾濫流によるものと河岸浸食によるものとがあります。

※氾濫流による区域はありません。

家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)

洪水時の河岸浸食により、家屋が流失・倒壊するおそれがある範囲



凡例

	指定緊急避難場所
	指定避難所
	自主避難所
	国県道
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	洪水浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川